



令和3年度 栗東市立教育研究所研究事業 調査研究

栗東市立教育研究所研究員 松田 愛

研究主題

通常の学級と通級指導教室をつなぐ実践

—「子どもの学びをつなぐ」「教師がつながる」視点から—

1. 通級指導教室の現状

通級による指導は、平成5年度から制度化されました。滋賀県における対象児は1,742人(令和2年度)、通級指導教室の数は93教室まで拡充しています。栗東市においては、通級指導教室を「ことばとまなびの教室」と呼び、市内小学校に4教室、中学校に1教室設置されています。

2. 通級指導教室の課題

通級による指導の目的は、障がいによる学習や生活上の困難の改善・克服を目的として、児童生徒のニーズに応じて指導を行うことにより、その指導の効果が通常の学級における授業や生活において発揮できるようにすることです。通級指導教室での専門的な指導が生かされるためには、通級担当者、学級担任や保護者との連携が欠かせません。教師同士がつながり、密な連携を図っていくことにより、それぞれの場での対象児の学びがつながり、通級指導教室と通常の学級での「学びの連続性」がうまれていくと考えます。

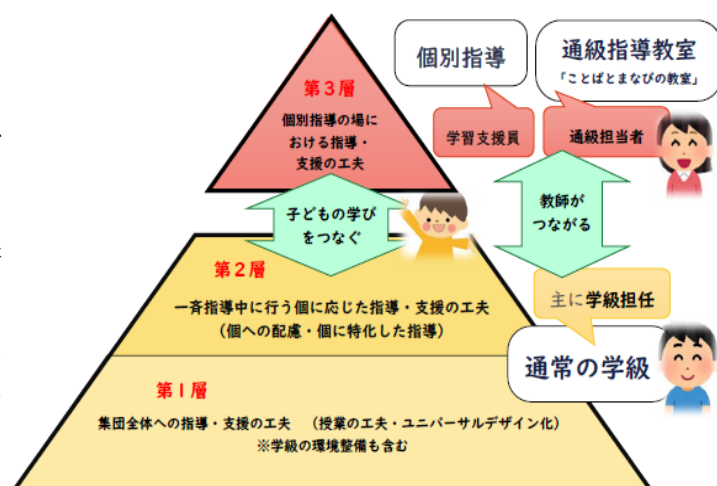
しかし、多忙な学校現場において、対象児の実態や課題について学級担任と通級担当者が共有する時間の確保が難しい現状があり、通級指導教室での指導内容を学級担任が把握したり理解したりすることが不十分であることが課題として挙げられます。

3. 研究の目的

本研究では、対象児の通級指導教室と通常の学級における「学びの連続性」に焦点を当てながら、学級担任と通級担当者との連携の在り方を提案し、通級指導教室の指導内容を通常の学級での授業や生活に生かしていくことで、対象児の学びをつなげていくことについて考察します。

4. 研究の方法

栗東市内の小中学校の教職員への質問紙調査、また、通級担当者との面接調査を通して、現状と課題の把握を行います。そして、課題解決のための方策を検討し、実践・検証へと進めていきたいと考えています。研究に係る調査等へのご協力をお願いいたします。



福祉的視点で子どもを見守る

滋賀県スクールソーシャルワーカー 津村 祥枝



近年、児童数は減少しているにもかかわらず児童生徒の問題行動は増加が続いており、その内容は多様化しています。

このような状況の背景には子ども自身の発達課題・学校環境の問題・家庭環境の問題が複雑に絡み合っていますが、その中で家庭環境の問題が占める割合は大きくなっています。

実際に子どもの課題対応で保護者のお話を傾聴すると、家庭内での夫婦間の不和、DV、経済的不安、人間関係不安等、保護者自身が課題を抱えておられ、さらに「その問題を誰にも相談していない、相談できない」と孤立状態にあることが多いです。

このような視点から、SSWは単に子ども自身の問題や発達課題だけではなく、子どもを取り巻く環境や関係性に目を向け、その環境の調整・改善を図ることで個々の課題解決を目指しています。

児童支援においては校内チーム体制及び他機関とのネットワークを構築し、連携・調整していくことが重要となりますが、他機関連携においては市内の園、学童、家庭児童相談室、児童生徒支援室、通級指導教室、発達支援課、社会福祉課、少年センター、社会福祉協議会、そして児童相談所、警察等と多くの機関で子どもを見守り支援していきます。

様々な機関と情報を共有することで「なぜこの子どもはこのような問題行動をとるのか？そのきっかけは何か？」、また「保護者は現状をどのように感じているか？どうしていきたいか？」等、子ども・保護者それぞれのアセスメントが可能となり家庭背景が見えてきます。

このように具体的事実に基づいて客観的・科学的に問題の原因を解明し分析するので、子どもを理解した支援プランとなり、より良い支援に近づけることができます。

学校生活において子どもたちは、遅刻・欠席・忘れ物・宿題・歯磨き・身だしなみ等リスクを予測できるサインを出しています。コロナ禍で潜在的に支援が必要な家庭が埋もれがちな今、学校で「崩れの兆し」をいち早く見極め、子どもたちのサインを見逃さないことが課題改善・未然防止につながります。教育の専門家でいらっしゃる先生方の目に我々福祉の目を加え多角的視点から子どもたちのサインをしっかりとキャッチし支援を実施して行きたいと思っています。

今年度は栗東市内9小学校及び1中学校を定期的に訪問させていただく予定です。ご相談、保護者面談、ケース会議、また定期訪問以外にも緊急ケース等対応しますので、ぜひ「スクールソーシャルワーカー活用事業」を見守り支援にお役立てください。

★津村祥枝先生の紹介★

昨年度から滋賀県のスクールソーシャルワーカーとして栗東市内小中学校がお世話になっています。社会福祉士の資格をもっておられ、他市で、外国語教育に従事されたり、介護施設の環境改善のためのコーディネーターやアドバイザーをされたりした経験もお持ちです。また、虐待対応や育児相談など、子ども家庭相談室で相談員として勤務されたこともあります。これらの経験を生かされ、現在、滋賀県及び他市のスクールソーシャルワーカーとしてご活躍されています。





スクールソーシャルワーカーって？

スクールソーシャルワーカーはどんな人がしているの？

滋賀県教育委員会におけるスクールソーシャルワーカーの選考基準

スクールソーシャルワーカーとして選考する者については、「社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉に関する専門的な資格を有する者のほか、教育と福祉の分野において、専門的な知識・技術を有する者のうち、活動実績を鑑みて県教育委員会が適任と認めた者」と定めています。

社会福祉士とは、
○専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害がある者、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行う者です。
○社会福祉士国家試験に合格した者です。



精神保健福祉士とは、
○専門的知識及び技術をもって、精神障害者の社会復帰のために、相談に応じ、助言や指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う者です。
○精神保健福祉士国家試験に合格した者です。



スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーとの違いは？

スクール ソーシャルワーカー

社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家。

福祉の
専門家



スクール カウンセラー

心理の専門的な知識、技術を活用し、児童生徒の悩みや不安を受け止めて相談にあたり、関係機関と連携して必要な支援をするための心の専門家。

心理の
専門家



それぞれの専門性を活用し、互いに連携することが大切です。
(例) ケース会議等

教育の専門家
(教職員)



各 校 園 の 研 究 主 題

金 勝 第 1 幼 児 園	自分の思いを伝え相手の思いに気づける子どもをめざして ～ふれあい遊びを通して～	
金 勝 第 2 保 育 園	「わくわくドキドキ心を動かし、夢中になって遊びこむ子どもの育成」 ～子どもが主体的に遊びを創り出す環境のありかた～	
葉 山 幼 児 園	こころのねっこを育てよう ～笑顔いっぱい、元気いっぱい、動かそう心と体～	
葉 山 東 幼 児 園	主体的な保育って？ ～環境構成を通して～	
治 田 保 育 園	「感性を豊かにし、いきいきと表現できる子どもの育成」 ～子どもが夢中になってあそぶことのできる環境とその援助・ 心を動かす出来事との出会いを考える～	
治 田 幼 稚 園	『のびのびと身体を動かし自分なりに挑戦しようとする子どもの育成を目指して』 ～基本的な身体の動きを経験できる環境を探る～	
治 田 東 幼 児 園	「やってみよう」の心を育む ～環境を通して個々が育つ保育のあり方～	
治 田 西 幼 児 園	しなやかな心と体を育み、主体的に遊ぶ子どもの育成 ～人との関わりを通して、心身ともに育ちあう子どもの育成～	
大 宝 幼 稚 園	「心はずませ、主体的に遊ぶ子どもの育成をめざして」 ～自ら体を動かしたくなる環境や援助の工夫～	
大 宝 幼 稚 園 分 園	『自ら意欲的に遊ぶ子どもをめざして』 ～子どものつぶやきや気付きに寄り添う保育～	
大 宝 西 保 育 園	「心動かし、いきいきと遊ぶ大西っ子を目指して」 ～自ら人とつながり、考え、工夫する力を育てる保育の在り方を探る～	
大 宝 西 幼 稚 園	「心動かし 生き生きと遊ぶ 大西っこを目指して」 ～自ら学び考える力を育てる保育者のあり方を探る～	
金 勝 小 学 校	自分の思いをもち、伝え合うことで深い学びができる子どもをめざして ～汎教科的で子どもの生活とつながりのある言語活動を取り入れた授業の工夫～	国語科
葉 山 小 学 校	自分の思いや考えをもち、考えを更新することができる子どもの育成 ～国語科における単元構想と言語活動を工夫して～	国語科
葉 山 東 小 学 校	一人ひとりの思いや願いを共有し、集団の中で育ち合う子どもの姿を求めて ～話し合う必然性を生み出す議題づくりを通して～	学級活動
治 田 小 学 校	「自尊感情が高まる『できる』『わかる』授業づくり」 ～ＩＣＴを活用した『誰一人取り残さない教育』を目指して～	全教科
治 田 東 小 学 校	自信をもって自ら学ぶ子どもの育成 ～つなぐ場が生まれる国語科学習を通して～	国語科
治 田 西 小 学 校	どの子も自分の考えをもち、学びを深め広げる授業づくり ～言葉を大切にしながら読み、自分の考えをもち、学びを深め広げようとする 指導を通して～	国語科
大 宝 小 学 校	考え続ける子供の育成Ⅱ ～各教科の見方・考え方を働かせた授業作りを通して～	全教科
大 宝 東 小 学 校	目的意識をもって学びに向かう子どもの育成 ～主体的に学びを深めていく姿をめざして～	全教科
大 宝 西 小 学 校	心動かし いきいきと学ぶ 大西っ子を目指して ～自ら学び考える力を育てる授業のあり方を探る～	全教科
栗 東 中 学 校	将来の生き方を拓く特別活動の在り方～仲間力を生かした話し合い活動の広がり～	特別活動
葉 山 中 学 校	生徒が学びを実感できる授業づくりの充実 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる授業改善と、 学習評価の工夫を図る～	全教科
栗 東 西 中 学 校	１人１台のＰＣ環境を生かした、生徒が主体的に学ぶ環境を創る実践【Ⅰ期】 ～「読み解く力」育成の視点を土台に置いて～	全教科

〒520-3088 栗東市安養寺一丁目 13-33 栗東市教育委員会事務局内

TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149

E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp